日本共産党あきる野市委員会発行

あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL＆FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2008.3.9　No.482（毎月２回発行）

「後期高齢者医療制度」で 2月19日に 学習会

五日市日本共産党後援会

頭から湯気が出るほど怒って…

増田忠治さん（健康友の会秋川流域支部長）の紙芝居とわかりやすい説明で盛り上がった参加者は、全員が質問やら意見やらを述べ合って、いまにも怒りで沸騰しそうな様子。

なかでも、84才の男性の「頭から湯気が出るほど怒っている。長生きしてすみませんなんていわせないで欲しい」の発言に「そうだ！」の声。

なんとしてもやめさせるため署名を集め、3月23日の集会にみんなで参加しましょうと拍手で誓いあいました。（五日市交流センターで）

3月議会始まる　日本共産党市議団の　質問に注目！

3月定例議会が2月27日～3月26日までの日程で行われています。

今回は臼井新市長になって初めての予算議会で、市長の考えが示される議会でもあります。

日本共産党議員団の一般質問は11日から13日におこなわれます。山根議員は3番目（11日）、戸沢議員は8番目（12日）、影山議員は15番目（13日）と決まりました。日本共産党市議団の質問を紹介します。

市民の医療は？　土地公社問題は？

永田橋周辺の環境対策と市民検診

③番＝山根とみえ議員

永田橋架橋工事が進み、仮橋の通行が開始されました。

河川敷の汚泥撤去計画はどうなっているのか。また、学童の交差点、通学路の安全のため早急に対策をとるように求めます。

国の医療制度改革によって市民検診の内容が変わります。市民検診は重要な施策であるから一層の充実を求めて問題点を聞く。

また、後期高齢者医療制度が4月から実施されるが、制度の内容の説明会などの対策はどうかをたずねます。

財政難の要因の一つ 土地開発公社について

⑧番＝戸沢ひろゆき議員

昨年12月の議会で臼井市長は「再び市長に選ばれたことは、公社の健全化の課題を解決することの責任がある。全力を傾けてまいります」と答弁しました。公社の土地20カ所すべてを日本共産党議員団は視察して来ましたが、果てのない無駄な先行取得をしたものだと感じざるを得ませんでした。

菅生インダストリアルパーク構想の破綻、草花小前の土地などに費やす利息払いに市税をつぎ込んできた責任を市長に問いただします。

食の安全と農業振興について

⑮番＝影山　保議員

中国産冷凍ギョーザ中毒事件は、輸入の検査体制の弱さとともに、食料の6割以上を外国に依存している危険を浮き彫りにしました。

あきる野市としても、食の安全・安心の確保のために、検疫体制強化など、政府に改善を求めていくことを提案します。学校給食や保育園給食を心配する市民の声に応え、輸入食材の現状と安全対策を問います。

また市政方針でいわれている農業振興の具体化について問います。

3.23 後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める 東京大集会

日時＝3月23日
13時開場、13時30分開会

場所＝井の頭公園・西園
JR・京王線「吉祥寺」駅下車

主催＝後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める東京連絡会

おばらしき こどもぐらし

たばた　あずみ

春です。もうじきむすめが幼児園を卒園、小学校入学です。まだちいさいと思っていたのに、気が付けば勝手に変な書き順・鏡文字の字を書き、足し算を覚え、あこがれの小学校生活に胸をふくらませている様子。

親のわたしにとっては2度目の入学、それほど緊張はしませんし、小学校に入ってしばらくすれば、今よりずっと手がかからなくなることも経験済み。だけど。なんだか卒園がさみしく、まだ園生活が続けばいいのにという気持ちにもなるのです。

これって、こどもがお姉ちゃん（お兄ちゃん）とあかちゃんの間を行きつ戻りつするのに似てるかも。こどもがそうやって少しずつ成長するように、わたしも少しずつ、この子の親として成長…できてるのかしら。　（08.3.9）

連絡先は☎550-6674

野良望

▼通勤の満員電車で痴漢と間違われ裁判にかけられている人の訴えを聞いた。満員電車の中ならだれにでも起こりうる。怖いのは「話せばわかってもらえる」と思い話すのだが、まったく聞いてもらえないことだ▼警察では「認めなければ釈放しない」「弁護士には会えない」「罰金刑で前科はつかない」などウソと脅しで自白を迫る▼地裁では無実を訴えれば訴えるほど「反省がない」と実刑1年6ヵ月にされる。高裁では、〝被害女性〟を証人にしたことまで被告の責任だとして「懲役1年6ヵ月が相当」と。これは憲法37条に明記されている被告人の権利を無視するもの▼刑事事件では「疑わしきは被告人の利益に」（確かな証拠で犯罪が立証されなければ罪に問われない）などが原則のはずだが▼こういう判決で、職も失い、犯人とされ四人家族の一生が狂わされる。最高裁に上告中だが、えん罪をなくすには取り調べの全面録音・録画が課題であるとともに、裁判にも国民の監視と声が必要だ。（湘）

医療費は無料、教育費も大学まで無料の国

キューバを訪問して①

野辺在住・高橋養蔵

どんな国？

人口1124万人、面積は日本の本州の半分、山間地が3割、平坦地7割。産業は、観光、砂糖、医薬品、ニッケル、漁業。サトウキビの栽培は従来の5割に。経済は、GDP（国内総生産2006年）47589百万ドル、日本の約90分の1、一人当たりのGDPは3762ドル、日本の約9分の1。米国の経済封鎖と旧ソビエト崩壊の時が大変だったそうです。その困難を、部分的に市場経済を導入、軍事費を45％削減して切り抜け、現在は、中南米の国々との積極的な外交によって経済も順調だそうです。

革命広場

昨年12月、「日本キューバ科学技術交流委員会」設立20周年の記念行事に参加しました。総勢38名で、私は、医療部会に参加し、診療所、病院、医科大学、国立血液血管学研究所、国立腫瘍学研究所、医薬品研究開発センターなどを訪問しました。

出発前に気になっていたことは、元首カストロの国政へのかかわりで、個人独裁的な面がないかということです。憲法のもとに議員589名を選出、一院制で議員内閣制度の国政運営をおこなっているようです。

福祉施設、病院、研究所などの視察、街を歩いても、カストロの写真をかかげているところはありませんでした。

私たちを案内してくれた、ハバナ大学の日本語科を出たホセさんに率直な質問をしてみました。日本で社会問題になっている、ホームレスはいますかという質問に「キューバにもいます。若い人で農業がいやで、都会に出て仕事が見つかるまでホームレスになります」日本と実情が違うようです。餓死する人はいますか「食べられなくて、死ぬ人は一人もいません」という返事。日本ではいるんですよと話すと驚いていました。世界で共通語になっている過労死という言葉を知っていますかという質問には「それはなんですか」働きすぎて死ぬことです、と話すと「へー、キューバでは考えられない」と本当に驚いていました。

一日の生活をみていると、夕方5時には仕事を終え、夕食後、街に出て遊んでいる人々が沢山いました。これがあたりまえの生活ではと、日本の異常さを改めて感じました。

（つづく）

川柳

イージス艦漁船を沈め国守る政府ありう人生しまい七十五　西川昇

漁民よりアメリカ守る自衛隊　松籟坊

悪政の根源をつく党綱領　松籟坊

「憲法まもれ」――新たな出発にむけて⑲

九条・二十六条を守れ

平沢在住　佐山幹夫

学校から戦争が見える

こう言ったら驚かれるでしょう。日本が「十五年戦争」をする前から、子どもも大人も戦争に反対できぬように、欺かれ分断され追いつめられました。今、同じ事が教育に起こっていると感じます。

「教育改革」の名の下で

この十年間強引に「教育改革」が押し進められ、その中で次に述べる戦時下の教育とも呼びうるような学校の状況になっています。

①子どもたち

早いうちから「学力」で競わされ、学年が上がるほど勉強を苦役と考え、将来に希望を持てない子どもが増えています。「学級崩壊」は今や珍しい現象ではありません。

②先生たちは…

私は三年前に病院に入院し看護師や医師が倒れるほどの過重な勤務実態を見ました。同じことが学校でも常態化し、心身を病み教師を辞める数が増えています。

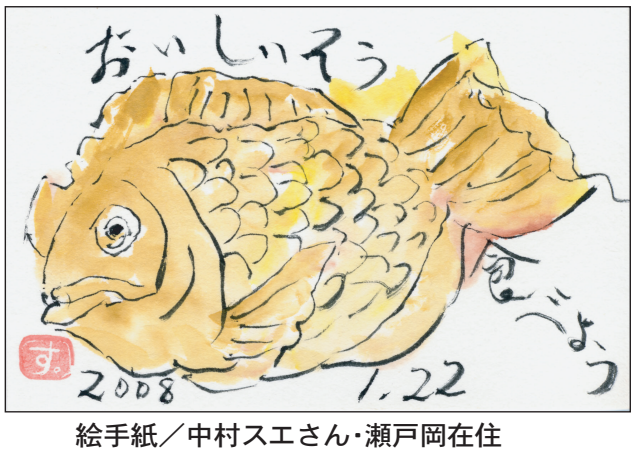
教育行政は…

教育活動に支障を感じるまでに学校予算を削りました。文科省は「全国学力調査」を実施し、多くの子どもと教師に失望を、一部の教育産業に莫大な利益を与えました。東京都は全国で唯一「少人数学級」に背を向けています。

九条とともに二十六条を

憲法二十六条は、保護者に「普通教育」（普遍的で共通の）を受けさせる義務を定めています。政府・与党は一昨年十二月教育基本法を「改正」し、教育の目的を「人格の完成」から実質大企業・国家に役立つ人材作りに変え、実行に着手しつつあります。これは二十六条とは相容れないものです。

平和を守るために憲法九条と共に二十六条を守ろうと言いたいのです。



絵手紙／中村スエさん・瀬戸岡在住

俳句

残雪の黒き塊解けぬまま　（静子）

冴返る夫の遺墨の走り書き　（淑子）

爺々へさし出す両手かじかみて　（るり子）

残業の人気なき部屋冴返る　（昭代）

校庭の天へ抜けゆく声二月　（かほる）

軒氷柱猫寄せつけぬ光かな　（富子）

雪まろく積もりて貨車の連なれり　（忠治）

閉店の文字寒風に吹かれをり　（つや）

蕗の薹飲み足りぬ嬰の口急はし　（勝代）

グミの木に寄って離れて寒雀　（やす子）

春眠の奈落に落ちぬ楽の中　（秀治）

歴史探訪　第62回　唐沢武一さんに聞く

昔の二宮④

二宮神社から東への通り

現在「秋川歌舞伎あきる野座」として伝承される「二宮歌舞伎」は、神社に奉納するために舞った神楽師が創設し広がったものですが、歌舞伎を上演するに至り演者も神楽師から農民に移ってゆきます。全国にある農村歌舞伎と同様に農民が演技し、全盛期の大正期では二つの座で六十人を超えたといいます。

「歌舞伎を見に来る客達が利用した料亭の繁栄が、二宮の街を賑やかにしてゆきました。歌舞伎を上演する劇場は《有楽館》といって、今の本宿通り（五日市街道に沿った商店街）のラブリ美容室の所にありました。地方興行でも八王子や青梅など祭礼で上演を頼まれれば、何処へでも行きました。興業で行くわけですから、お金も随分稼いだようです。田圃を埋めて線路ができ、電車が走ったのが大正十二年か十三年の頃です。神社下の線路に沿った埋立地にまだ住宅が一軒も建たない頃、有楽館とは別に、今の《中島屋》の近くに丸太を組んで芝居小屋を造り、女歌舞伎の興業が十日間ありました。一つの芝居を舞台の左右交互で演じるわけですから、幕間がなくそれは見事なものでした」（続く）

草花　木崎秀治